



表紙/国道38号線清見橋 写真左:平成28年9月 写真右:平成29年10月

理 念

私たちは、赤十字の理想とする人道・博愛の精神にもとづいて、よりよい医療を提供し、皆様に信頼される病院をめざしています。

基本方針

1. 地域医療の推進と救急医療の充実に努めます。
2. 患者様の権利を守り、その意思を尊重した医療を行います。
3. 地域の皆様の健康増進と疾病予防に努めます。
4. 清潔、快適で、やすらぎのある環境づくりに努めます。
5. 常に研鑽を重ね、資質・技術の向上に努めます。

Pick Up

- ・台風災害後1年の活動
- ・新しい内視鏡システムを導入しました



日本赤十字社 清水赤十字病院

Japanese Red Cross Society

〒089-0195 北海道上川郡清水町南2条2丁目

TEL0156-62-2513 FAX0156-62-4460

URL <http://www.shimizu.jrc.or.jp/> Mail rccssoumu@shimizu.jrc.or.jp



“All Hazard Approach”



病院長 藤城 貴教

時が過ぎるのは早いもので、平成28年台風10号被害より1年余りが過ぎた。破壊された橋梁や道路などのインフラは徐々にではあるが復旧復興が進み、札幌圏への幹線道路である日勝峠も、この10月末には再開通する予定である。清水町は開基以来初めて、かくも甚大な自然災害を経験し、当院も設立71年にして初めて断水の試練に晒され、地域に救護班を派遣する事態となった。

我々は救護団体として、救援活動には慣れているものの、今回のように医療施設として援助を受ける、いわゆる”受援”には全く慣れておらず、災害が起った時、医療施設に必要なものは何か、そして効果的な受援とは何か、身をもって知ることができたことは大きな教訓である。また災害時のB C P（事業継続計画）についても深く考えさせられる良い機会であった。

ただ、これらの稀有な事態を決して経験だけに終わらせてはならず、そこから学ぶことが大切である。そこで、“経験から学ぶ”とは何か、どのように学ぶべきかということを、組織行動学者のディビッド・A・コルブが提唱する“経験学習モデル”に当てはめてみると、被災という“経験”→何が起きたかを多様な視点で振り返る“省察”→他の災害でも応用できるような“概念化”→新しい場面で実際に試してみる“試行”というプロセスが必要なのである。災害後、多くの職員が今回の“経験”を学会や研究会の場で発表・講演し、また災害を想定した訓練を実際に行っている部署もある。これらはまさに、“省察→概念化”的プロセスを進んでいることに他ならず、次の災害への備えは目に見える形で着実に進んでいる。

医療は地域社会と共にあり、来年の診療報酬改定への対応や、地域包括ケアシステムの構築と強化が求められている現状である。清水赤十字病院は、赤十字グループの中でも最も小規模な施設のひとつであるが、病院規模と機能それに能力は必ずしも比例しないという事を自らの手により実証していきたい。

「彼（か）を知り己（おのれ）を知れば、百戦して殆（あや）うからず」 孫子

台風災害後の1年の活動

藤城 貴教 病院長

2016. 10. 3 帯広協会病院災害勉強会講演
【平成28年台風10号災害に対する当院の対応について】
2016. 10. 13 医療講演（北見赤十字病院）
【地域医療に活かす国際救助の知識と経験】
2016. 12. 9 日赤北海道ブロック支部院長事務部長看護部長会議（日赤北海道支部）
【災害時の支援について—医療機関の支援計画—】
2017. 2. 9 十勝透析研究会台風災害報告会（とかちプラザ）
【平成28年台風10号被害に対する当院の活動について】
2017. 2. 13 第22回日本集団災害医学会総会学術集会（名古屋国際会議場）
【平成28年台風10号被害に関する当院の救護活動】
2017. 3. 11 十勝臨床衛生検査技師会特別講演（帯広協会病院）
【台風10号への対応・水害後の感染症発生予防への対応患者PTSDへの対応等】
2017. 3. 24 医療講演（釧路赤十字病院）
【災害時の支援について】
2017. 4. 19 防火・防災対策委員会主催研修会（清水赤十字病院）
【災害時の支援】
2017. 5. 31 災害学習会（十勝勤医協帯広病院）
【赤十字の国際救援活動と災害時の支援について—医療機関の支援計画—】
2017. 9. 29 医療講演（武蔵野赤十字病院）
【地域医療に活かす国際救援の経験】
2017. 10. 15 北海道民医連第21回技術系学術集談会検査部門講演（札幌コンベンションセンター）

その他

2016. 11. 19 第7回日本赤十字社臨床工学技士会（旭川赤十字病院）
【台風10号による災害対応について】 中田臨床機器管理係長
2016. 11. 26 平成28年度釧路地区臨床工学技士会秋セミナー（釧路赤十字病院）
【台風10号における断水を経験して】 村谷臨床工学技術課長
2016. 11. 28 平成28年台風災害活動報告会（ハーモニープラザ）
【台風10号における断水を経験して】 村谷臨床工学技術課長
2017. 2. 9 十勝透析研究会台風災害報告会（とかちプラザ）
【台風10号による断水を経験して】 村谷臨床工学技術課長
2017. 5. 20 平成29年度北海道栄養士会十勝支部総会（とかちプラザ）
【平成28年台風10号における当院栄養課の対応】 千葉管理栄養士
2017. 6. 17 第62回日本透析医学会学術集会・総会（パシフィコ横浜）
【台風10号における断水を経験して】 中田臨床機器管理係長
2017. 6. 29 第49回十勝透析研究会（日航ノースランドホテル帯広）
【台風10号災害による経験と今後の取り組み】 中田臨床機器管理係長
2017. 10. 23 第53回日本赤十字社医学会総会（仙台国際センター）
【台風10号における断水生活透析患者の影響と対応】 村谷臨床工学技術課長
- 【災害対応時の院内情報共有について】 大川総務課長職務代理
- 【平成28年台風10号における災害弱者への支援】 村井・後藤看護師
- 【平成28年台風10号における栄養課の対応】 千葉管理栄養士
2017. 11. 4 第8回日本赤十字社臨床工学技士会（伊達赤十字病院）
【今振り返る2016年台風の記憶と経験と教訓】 村谷臨床工学技術課長

透析センターで避難訓練を実施

～個人情報カードを用いた透析患者の避難訓練の試み～

2017年7月11日から7月25日にかけて、透析患者とスタッフを対し緊急離脱訓練の実践を目的として、個人情報カードを用いた透析患者の避難訓練をはじめて実施しました。

方法は、午前透析を施行している自立歩行者6名、車いす使用者4名・ストレチャー使用者1名の計11名（2～3名単位）に対して、血液回収後から緊急離脱訓練を開始し、避難場所までの移動時間と訓練前後の血圧値の比較並びに避難経路の確認を合わせて行い評価しました。



緊急離脱の様子



避難時の個人情報カード

結果として血液回収時間は 5.1 ± 1.8 分、避難全体平均時間（移動距離約150m）は 5.1 ± 1.6 分（内訳：歩行者 5.6 ± 1.3 分・車椅子 6.1 ± 0.5 分・ストレッチャー4分）だった。避難前血圧値は $147 \pm 26/77 \pm 13$ 、避難後血圧値 $141 \pm 33/75 \pm 21$ 、避難経路については建物の段差や路面の勾配の変化などで転倒の危険性がある場所を改めて把握する事ができました。



非常口からの避難

個人情報カード

自立度別に行った少人数単位での訓練は、他の患者が治療中であっても2名のスタッフで安全に行える他、回数を多く行う事でスタッフの対応能力も向上した。また個人情報カードを携行させる事で、素早く多くの正確な患者情報と共に患者を避難する事が可能になる事から来年度以降も継続して実施して行きたいと思います。



避難経路途中の様子



日赤スポーツ大会

フットサル部

2017年7月22日～23日にかけて北見市で行われた平成29年度全道赤十字病院職員親善フットサル大会に参加してきました。当院のフットサル部は今年度設立し、男女合わせて17名で毎月水曜日に町民体育館で練習を行い技術を磨いてきました。

試合結果は0勝3敗となりましたが、部員も少ない中、選手全員が一生懸命走り、試合に臨んでいました。この経験を活かし、来年は優勝を目指して頑張りたいと思います。

なお、常時部員を募集しています。サッカーが好きな方、スポーツをして体を動かしたい方は、お近くのフットサル部員にお声掛け下さい。



出場中の様子



試合開始後の集合写真

野球部

野球チームは置戸赤十字病院、函館赤十字病院、北海道支部との混成出場でした。当院からは藤城院長を含め6名が参加しました。前日に親睦を深めていざ対戦。1戦目は北見赤十字病院と、2戦目は釧路赤十字病院との試合でした。練習の成果が生かせず惜しくも敗れてしまいましたが、それでもヒットやタイムリーが飛び出すなど打撃は好調！ でも一番の喜びは、寄る年波に臆することなく大きな怪我をせずプレイできたことなのかもしれません。



試合開始前の整列



出塁した藤城院長

地域連携室だより 「ちいれん」

～グループホームで出前講座を開催しました～

地域連携室だより「ちいれん」第4号は、医療保健福祉講座の取り組みについて取り上げます。2017年7月11日、「グループホーム新得ふれあい館」にて千葉早苗管理栄養士による医療保健福祉講座を実施しました。

グループホームとの連携の取り組みは昨年5月、医療・介護連携の一環として「株式会社アルムシステム グループホーム新得／屈足ふれあい館」との業務委託契約を締結したことからスタートしました。

これまでグループホームには看護職員がおらず、雇用しても退職等により継続した入居者の健康管理が困難という課題があったそうです。また、施設の介護スタッフでは利用者が体調不良を訴えてもどう対応していいのか判断できないため、受診・受療に関して相談を行える体制を整えたいというニーズを表出していただいたことから当院看護職員の訪問事業が開始されました。

そして今回の医療保健福祉講座も、そういうつながりの中での企画となりました。「入居者には塩分制限が必要な方もいるが、食事の提供に関して様々な制約がある中で何か減塩のアドバイスがもらえたら」との意向から千葉管理栄養士と打ち合わせ。施設側と各種調整を行い開催に至りました。

講座では、塩分過剰摂取による身体への影響や食品表示の実際、美味しく減塩するための工夫などの話題があり、無理なく減塩メニューを続けることへのアドバイスがされました。

講座終了後に依頼したアンケートでは、「ちくわや丸天等の練りものにも多くの塩分が含まれていると知り驚いた」「みそ汁の量も多すぎだった」などの回答をいただいた一方、「食事を生活の楽しみにしている入居者にとって、病院と同じような減塩は難しい」といった声もいただき、病院とは違う栄養管理の工夫やこれからの課題もみつけることができました。

医療・看護・理学療法・社会福祉など…さまざまな専門職が在籍し、さまざまなノウハウを持っているのが地域における総合病院のメリットの1つであると感じています。地域に住むみなさまのよりよい生活の一助とさせていただくためにも、各専門職からのお話を聞いてみたい方がいらっしゃいましたらお気軽にご相談ください。

地域医療連携課 石井康浩



第53回日本赤十字社医学会総会

2017年10月23～24日、仙台国際センターにて「第53回日本赤十字社医学会総会」が開催され、当院からは合わせて6題の発表を行いました。

医学会に先駆けて10月22日に行われた被災地視察プログラムには5名が参加し、松島町・石巻市を中心に見学を行いました。「公益社団法人みらいサポート石巻」スタッフによる案内のもと体験談の講聴、当時の様子や現在、そして教訓を未来へつなげる取り組みについて学ぶことができました。



日和山公園からみた石巻市の現在

発表は、昨年当町を襲った「平成28年台風10号災害」においての対応を中心とした演題でした。断水を経験し、水の供給が必要不可欠な人工透析、食事を提供する栄養課、そして自宅での生活が困難となった高齢者等の入院対応など、災害時における要援護者の支援に関する取り組みが各専門職の視点で発表されました。



ポスター発表と口頭発表の様子

また、昨年の医学会において発表された約750演題の中から、大川浩二総務係長発表の「氷点下での救護訓練活動～in北見～」が優秀演題として受賞し、富田博樹医療事業推進本部長より賞状と記念品が授与されました。



表彰の様子と医療事業推進本部長との記念写真

新しい内視 FUJIFILM社超音波観測装置SU-1とラジアル



2017年9月8日に開催した赤十字フェスティバル地域公開講座で講演した道東初導入の超音波内視鏡装置について川村雄剛消化器内科副部長に聞いてみました。

2016年10月より消化器内科副部長として赴任いたしました、川村雄剛です。時が経つのは早いもので、清水赤十字病院にきてから1年が過ぎました。

さて、私は仙台赤十字病院で初期研修を終了し、同院で消化器内科医としての道がスタートしました。その後は横浜の昭和大学横浜市北部病院、室蘭の日鋼記念病院、川崎の新百合ヶ丘総合病院にて内視鏡診療の研鑽を積みました。

これまでの消化器内科の診療の中で、特に力を入れて取り組んできたのが、内視鏡検査です。内視鏡検査は辛いもの、私自身がそう思っていた検査でした。この検査をいかに患者さんが苦痛なく、迅速かつ正確な診断を行えないものか、そのことを常に意識しながら検査にあたっています。

内視鏡検査については上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を基本として、ESDを始めとする各種内視鏡治療や胆脾領域の内視鏡診断・治療を幅広く行っています。今回は、この中でも胆脾領域と言われる、胆嚢や胆管、脾臓を主な診断対象とする超音波内視鏡検査（以下、EUS）について当院での取り組みを御紹介したいと思います。

当院では2016年11月よりFUJIFILM社の超音波観測装置SU-1とラジアル型超音波内視鏡EG-580URを導入して超音波内視鏡検査をスタートしました。2017年5月までは、スポットでのレンタルで導入しておりました。2017年6月からは、これらを常備する事でいつでもEUSを行う体制が整いました。

2016年11月から2017年10月15日現在までの検査件数は51件です。そのうちscreening EUSが46件、超音波内視鏡下穿刺吸引法（以下、EUS-FNA）が3件、interventional EUSが2件です。Interventional EUSは2件とも超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ術（以下、EUS-GBD）です。

目的は脾嚢胞性病変の精査が最も多く、次いで総胆管結石疑い症例の精査となっています。その他慢性脾炎や胆石症、胆嚢ポリープなどの良性疾患に対しても積極的に検査を施行し、治療適応や病状の進行の把握に努めています。また糖尿病患者に対しても脾癌の高リスク群であることから、コントロール悪化の際はもちろんのこと、長期罹患者に対しても早期発見を目的として脾臓のスクリーニング検査としてEUSを行っております。

先にも御紹介したように、screening EUSだけでなく、診断目的のEUS-FNAも行っております。これまで3件を行い、EUS-FNAにて病理組織学的に検体が適当と判断された病変（検体採取率）は、3例中3例（100%）でした。確定診断に至った病変（正診率）は、3例中3例（100%）でした。疾患の内訳は脾癌2例、腫瘍形成性脾炎1例でした。

さて、急性胆嚢炎は標準的に外科的切除が根治術であることは明白ですが、認知症や高齢化の問題や基礎疾患の問題から全身麻酔下の手術が困難である症例に遭遇する事があります。現在、EUSを用いることで外科治療に準ずる治療まで行う事が可能になりました。

鏡システム コンベックス型超音波内視鏡EG-580URを導入しました

当院においてもInterventional EUSとして、胆嚢炎を繰り返す手術困難症例に対しEUS-GBDを2例施行しております。コンベックス型スコープを用いて、十二指腸から胆嚢に瘻孔を形成し、ステントを留置することで持続的な内瘻化を成功させております。1例で軽度の胆汁性腹膜炎をきたしましたが、保存的に速やかに改善しております。

Interventional EUSを行うに当たっては常に合併症の発生を念頭に置く必要性があり、一般的には緊急手術の可能な施設で行う事が望ましいとされております。それが治療の原則であることは認識しておりますが、地域の特性として同様の治療を行うにあたり、大学やエキスパート施設まで移送・搬送することは難しいことが多いと言えます。当院の医療圏で治療を完結するためには、十分なインフォームドコンセントのもと安全性を確保した方法で治療にあたることは許容されるものと考えております。そのためには勇気ある撤退をすることも必要であり、当院のできる限界と治療可能な病変を見極めることが重要であると考えております。

今回、地域医療においてEUSを導入することで胆脾診療に幅を持たせる事が可能となり、地域完結型の治療を目指す当院の重要なmodalityになりうると思っております。今後も最新の知見を得る努力を続け、積極的に知識を得る機会に参加し、地域医療の発展に繋がると信じて今後もEUSを含めた内視鏡診療を積極的に行っていく所存です。



内視鏡室内の機材



超音波内視鏡施行の様子



内視鏡担当スタッフの集合写真

赤十字フェスティバル2017

9月9日晴天の下、前日の川村副部長のEUS（超音波内視鏡）の講演に引き続き昨年までは平日に開催されていた赤十字Festivalを本年度は土曜日開催に変更し開催。さらに告知用チラシを7000枚作成、清水、新得、鹿追に新聞折り込みを行いましたが、「チラシの1%来れば上出来。」との話もあり、メンバーの間では「そんなに来ないよね。」とか、「昼からは早めに撤収だな。」などと高をくくって当日を迎えました。

朝8時頃より会場の設営準備を開始し、ポップコーンや健康相談等の準備もそろそろ終わつたかな、と思っていたそんな頃、「清水高校のホッケー部が in body 測定に、昼過ぎ来るらしいぞ。」と一報が入り「サッカー部と女子バレー部も測定したいらしい。」との追加のorderも入り雰囲気が変わり始めました。この状況の上に当然、他の一般の方々も徐々に会場を訪れ始め、にわかに忙しくなり始めました。自分は in body 担当であったのですが装置の操作方法は山田理学療法係長がレクチャーを受けていたので午前中僕は、身長と体重の測定をしていたのですが、（その途中には一般撮影とCTの order も入り途中で交代する状況も発生し・・・）徐々に待ち時間が30分～1時間に延びていき、午後からのパークゴルフ大会参加予定の方の中には測定を出来ず会場を後にする人も発生してしまいました。

しかも in body の装置もこの様な過酷な使用状況を想定して作られておらず3回ほどフリーズしてしまいその度に シャットダウン→起動→10分の立ち上がり時間を繰り返さざるを得ませんでした。（ご苦労様でした、in body 君）

最終的に14：30過ぎまで in body が掛かってしまい他のブースが撤収をする中、測定を行っていたのですが、その際に日常的に運動している人達の in body の Fitness score（身長に対して体重が重く、体脂肪率が低い（筋肉が多い）と高値。）の値が往々にして良いのです。悪い方で50、良い方で70ほどありました。サルコペニアにならないためにも日頃から筋肉を意識して生活しましょう。（ちなみに自分77、医事課長87スッゲー！、ホッケー部主将92もっとスッゲー！！！）

最後に、来場者109名、in body 71名、動脈硬化チェック34名、健康チェック48名、栄養相談34名、AED体験30名、子供救護服7名と予想を超える参加者で炊き出しのカレーもほぼ完食という過去にない大盛況のなか幕を閉じましたが、土曜日開催、チラシの大量配布の効果と清水高校運動部の来場が大きく影響したのではないかと思います。

来年度も清水赤十字病院を大きくアピールする場として、赤十字Festivalを盛り上げていきましょう！！！



In body測定の様子



日本赤十字社北海道支部
マスコットキャラクター「アンリー」



千葉 管理栄養士 「北の災害食レシピ」入賞作を紹介!

パッククッキングは、カットした食材を食品保存用のポリエチレン袋に入れ、空気を抜いて口を閉じてから湯煎する調理法です。災害時にはカセットコンロでも、火を使うのが不安な高齢者は炊飯器や電気ポットでも湯煎調理が出来ます。さらにジップロック®はチャック付で封をしやすい利点があり、災害食や介護食の調理にとても便利です！パッククッキングには煮物や炊飯や炊き込み料理など沢山のレシピがあります。

使用する食材・分量(2人分)



新得町産乾そば200g、卵2個、清水町産黒豆茶大さじ2杯、コーン缶大さじ2杯、粉チーズ少々、細切り昆布4g、鮭フレーク大さじ2杯、長ねぎ1/4本、じゃがいも中1個、玉ねぎ中1/4個、人参中1/8個、カットトマト缶1/2個、カレールー2かけ、水、塩、こしょう

栄養成分(1人当たり)

564kcal、たんぱく質27.8g、脂質17.5g、炭水化物77.4g、食塩3.1g

作り方

- ①温泉卵を作つておく。400mlの湯を沸騰させ、水100mlと卵を入れたら火を消す。蓋をして10~12分保温したら湯を捨てる。※写真1
- ②野菜類はサイコロ切りにし、刻んだカレールーと200mlの水と共にジップロック®に入れる。中の空気を抜いてチャックを閉め、8割隠れる水に沈めて鍋の蓋をして30分程湯煎する。※写真2
- ③黒豆茶、細切り昆布はそれぞれ湯で戻し、長ねぎは小口に切つておく。
- ④②が柔らかくなつたらトマト缶を加え、味見をして、塩、コショウで味を整える。※写真3
- ⑤乾そばを茹でて丼に盛りつける。
- ⑥そばに④のカレーソースをかけて、トッピング（温泉卵、黒豆、コーン缶、鮭フレーク、粉チーズ、細切り昆布、長ねぎ等をお好みで）を盛り付ける。
- ⑦お好みで黒豆茶を添える。※写真4

ポイント

湯煎中、ジップロック®が鍋肌に触れぬよう、鍋に入れる水の量は8割が隠れる量、火加減は弱火～中火にします。また、材料に油分が多くても高温になりやすく袋が破けやすいです。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



人 事 消 息

【退職】平成29年6月30日付

職 員	氏 名	備 考
看護師	新田 麻水	
看護師	三上 華世	
総務課主事	酒井 敬多	

【採用】平成29年7月1日付

職 員	氏 名	備 考
看護副部長	大沼 まゆみ	*2階病棟配置
事務部付嘱託職員	柴田 直和	*会計課

【登用】平成29年8月1日付

職 員	氏 名	備 考
主事	鎌田 汀	*医事課

【採用】平成29年9月12日付

職 員	氏 名	備 考
看護師	池田 智子	*外来

【採用】平成29年9月12日付

職 員	氏 名	備 考
事務部付嘱託職員	宮脇 壮太	*総務課

【転入】平成29年8月1日付

職 員	氏 名	備 考
看護師	原 まどか	*富山赤十字病院より転入 ※2階病棟

【業務支援】平成29年8月1日付

職 員	氏 名	備 考
事務部付参事	熊谷 吉高	*北海道支部事業推進課参事 ～平成30年3月31日(期間限り)

次回予告！

広報誌は年4回発行を目指しております。次号は新春号として2018年1月の発行を予定しています。インフルエンザやノロウイルスが流行する季節、地域ぐるみで開催する感染対策研修会の様子等をお伝えしたいと思います。



●編集・発行責任者:林 裕一

●発行元:清水赤十字病院

●印刷:勇昇印刷有限会社

ちょっと部署紹介～薬剤部～

配属人数 薬剤師3人、薬剤助手1人

業務内容 入院患者さんを主な対象とした調剤、抗悪性腫瘍薬などの混注作業、医薬品の在庫管理・品質管理・発注・供給、「薬局だより」などによる医薬品情報提供、入院患者さんへの薬剤管理指導、医療安全対策、院内感染対策などを行っています。業務には多職種連携が不可欠ですので、ご用件がありましたらお気軽にお声かけ下さい。



編 集 後 記

10月上旬、北海道は朝晩の寒暖差が大きく秋の終わりを感じました。

災害から一年が過ぎました。災害当日は休みで清水の実家に帰っており朝起きると道が塞がって仕事に行けない上司から代わりに仕事に出てほしいと電話をもらい初めて災害になっているとわかり焦ったことを思い出しました。災害はない方が良いのですが、次回起きてても良い様に情報収集や対策をしていきたいと思います。

H.N